

II-1-2 地歴公民科

(1) 研究仮説

特定の時代における社会の危機的状況（ファシズムなど）を、様々な資料を通じて現在における危機的状況と比較しながら学ぶことによって、現在の社会について深く思考する意識を養うことができるだろう。

(2) 実践

ア 実施日時 令和5年1月20日 14:40～15:35

イ 実施場所 1年B組教室

ウ 参加生徒 1年B組の生徒38名

エ 行程 4人のグループを構成し、ファシズムという政治現象に関する基礎事項を全体で理解・共有したうえで、現在の日本及び国際社会における類似の状況について考察する。

オ 実施内容 「ファシズム」という政治現象を、教科書を使って定義づけ、さらに当時の社会状況をデータや写真、政策ポスターなどの資料を使用して理解を進め、学び取ったことを共有のスプレッドシートに記入していく。活動を通じて、それまで泡沫政党に過ぎなかったナチ党が、世界恐慌後の経済危機を通じて、選挙によって権力を獲得していくという過程、および、その主張がどのようにして支持されていくことになったのかということを理解する。そのうえで、現在の日本及び国際社会において、当時と共通する状況が存在するかということ、自由に話し合い、同じようにスプレッドシートに記入して共有する。

(3) 評価

ア 参加生徒の感想

・授業実施後にアンケート（無記名）を実施した。以下はその内容である。

①この単元のテーマは「ヒトラーが率いるナチ党は何を主張し、どのようにしてドイツの政権を握ったのだろう」というものでした。このテーマについて、文章で説明できる程度に自分が理解できたと思いますか。

そう思う＝13.9% ややそう思う＝58.3% あまりそう思わない＝11.1% そう思わない＝16.7%

②「ファシズム」という政治現象について、その用語が現代文などで使われたときに意味を把握したり、自分が文章表現をするときにその言葉を使いこなせたりといった水準まで、理解することができたと思いますか。

そう思う＝13.9% ややそう思う＝55.6% あまりそう思わない＝27.8% そう思わない＝2.8%

③現代の社会の中で、自分が生きていと思うように生きようと考えたときに、「資本主義」「ナショナリズム」「ファシズム」「社会主義」などの概念を理解することは、必要なことだと思いますか。

そう思う＝55.6% ややそう思う＝33.3% あまりそう思わない＝11.1% そう思わない＝0%

④授業に関する感想や意見を自由に記入してください。

・ただ言葉を覚えるだけでなく言葉の意味も通して覚えることで理解が深まってとても良いと思

います。

- ・授業の度に新しい単語が増えたり、国際関係をもう一度確認したりしなければならいけれど、単語や国際関係を新しく知ることが出来て嬉しい。
- ・中学で習った歴史を基礎としてそれを深掘りしていくのは楽しい。
- ・私が既に興味を持ち調べていた部分との違いや考え方の違いやとらえ方など、これら要因によってこれらの政治的方針の理解やそこに至るまでの道のりの認識が変わるなどと思いました。
- ・思想の違いなど、難しい関係図があって理解するのに苦労した。
- ・グループのみんなと意見が交換できるのでそこがよいとおもいます。
- ・学ぶことのボリュームが多い時は、考えるのも覚えるのも難しい。
- ・一般常識的な意味で有名な話であったから、その詳細を聞いておもしろかった。
- ・用語などの知識量を増やすよりも時代ごとの出来事をもとに「考える」ことが大切なのだなと思った。
- ・教科書に載ってないさらに深い内容まで学習できてとても楽しい
- ・班でみんなの意見交換のための時間が短いと感じる
- ・社会が不安定になると、一部の人間が権力を握り、だんだん偏った考えを生み出してしまうのが怖いと思った。
- ・ヒトラーがドイツを導き成長させた方法を少し知れておもしろかった。それでもなぜそこまで成長させることが出来たのかとても気になった。偉人取り上げたらよさそう
- ・ファシズムという言葉は授業中よく触れられていたので意味や経緯は理解できた。

イ 考察 生徒が現在の社会について熱意をもって話し合う様子が見られ、様々な考えや見方を持っていることがうかがえた。他方で、それをシリアスに話し合い、共有するという枠組みが極度に限られていることが、話し合いの内容から予想される（生徒の能力を踏まえれば、さらに論理的な深みを備えた議論が可能であると思われるため）。このような活動をさらに増やすことで、現在社会について深く思考する能力を育むことができると考える。

ウ 今後の考察 このような活動の機会を科目を超えて重ねることで、現在社会に関する関心が深まり、自らの経験に即しつつも、論理的な深み、多面性を備えた主張を行うことができる能力を養うことをめざしたい。そのためには、学習指導者による現代の社会およびそれぞれの時代に対する深い理解と、多様な資料の収集・分析が不可欠であると考えられる。

(4) 参考文献

- ・佐藤和夫 (2022) 「〈政治〉のこれからとアーレント：分断を克服する「話し合い」の可能性」花伝社
- ・佐藤学 浜崎美保 他 (2015) 「活動的で協同的な学びへ 「学びの共同体」の実践 学びが開く！高校の授業」(明治図書出版)
- ・木村靖二 他 (1997) 「世界の歴史 26 世界大戦と現代文化の開幕」中央公論社
- ・ハンナ・アーレント、大島 通義、大島 かおり (2017) 「全体主義の起源 3」みすず書房
- ・芝健二 (2007) 「ホロコースト—ナチスによるユダヤ人大量殺戮の全貌」中公新書